

株式会社 アーバンライク

理想を超える“家”づくり ファミリー層を中心に高い支持

「住宅会社の常識を変える」をコンセプトに、2008年に事業を開始し、建築や不動産を軸に「理想のライフスタイル創造」を目指してきました。その後、福岡県南から熊本、佐賀、沖縄まで事業所を展開し、県北地域では販売棟数No.1を達成。販売棟数は年間140棟を超えます。

わが社のここがイチ押し！

紹介率56%の圧倒的な顧客満足度

当社の住宅ブランド「アーバンホーム」は資金計画はもとより、お客様の毎日がより充実するご提案を行います。さらにお客様との繋がりを大切にし、アフターフォローも万全。地域の幸せな暮らしを後押しします。



お客様と盛り上がる、大人気のクリスマスパーティー

わが社のいきいき社員

“暮らし”を一緒に創造する楽しさ

◆入社何年目？担当は？

6年目です。現場監督として家づくりの工程表作成、材料の発注など全体の管理を担っています。

◆会社を選んだ理由は？

子どもが生まれる時に新しい仕事を探していて、現場監督の求人話をいただきました。カッコ良さそうな(笑)仕事だと思って。

◆難しいことは？

未経験からのスタートで最初は大変でした。現場監督は建築のすべてを分かっているわけがないので、一生懸命勉強しました。

◆やりがいを感じる時は？

家づくりはお客様の理想の暮らしを深く理解し合ってこそ実現できるもの。そういったお客様とのコミュニケーションがとても好きですね。いつの間にか絆が生まれ、打合せも友人に会うような楽しさがあります。その結果お客様の夢を実現できて、喜ばれるときの達成感は格別です。

◆メッセージ

社内の雰囲気は厳しさと楽しさのバランスが良く、とても仕事がしやすいです。ハードなこともあります。やる気があればきちんと評価してもらえますので、家づくりに挑戦したい方はぜひアーバンライクへ！

施工管理課マネージャー 平石敬史さん(32)

市内でいきいきと頑張る企業をご紹介！地元就職を考えている学生の皆さんも必見ですよ



【企業概要】

- 所在地(本社) 荒尾市万田 1597-2
- 連絡先 ☎64-3011
- 業種 建設・不動産・その他
- 資本金 1,000万円 ■従業員数 58人
- 事業内容 住宅・不動産・エクステリアなど
- 採用実績 採用年度:新卒(中途込み)
R1:4人(12人) R2:5人(23人)
R3:9人(12人) R4:25人採用予定



もっと自由な暮らし！価値が成長する家づくり



◇ナチュラル・シンプルモダン・リゾート&カルフォルニアスタイルまで**バラエティ豊かなデザイン性**
◇納得の**コストパフォーマンス**



◇設計基準・構造・耐震性も標準値を満たした**高機能**
◇お客様の秘めた願いを引き出す**経験と実績が培った提案力**

事業部長からのメッセージ



取締役事業部長 山瀬倫生さん(37)

地域に根差した頼れる企業に

当社は、常に地域のリーディングカンパニーとして安定した成長を続けてきました。従業員の平均年齢も30代と、お客様と同世代ばかり。営業担当者がお客様と話し合いながらその場で図面を引いていくので、より具体的な理想の家をイメージいただけます。どの事業所でも地元採用を重視し、地域密着型のいつでもお客様のところへ駆けつける工務店でありたいと思っています。

まちの話題



100歳 おめでとうございます

2月に古賀ハル子さん、2月20日に奥畑ヨシエさん、2月25日に有馬キクさんが100歳の誕生日を迎えられました。



古賀ハル子さん(大和)

節目の行事を大切に、正月飾りなど家飾りは毎年きちんと用意します。特技は書道で、賞状を貰ったことがあるほどの腕前。広報紙を隅々まで読むのが習慣で、相撲観戦が好きです。家族は「優しいけれど、ぴしゃつとした母で、学ぶところがたくさんあります」と話しました。



奥畑ヨシエさん(一紡)

宇土の綱田出身。幼い頃は、災害や火事などで苦労しました。結婚して荒尾にきてからは、持ち前の優しさと面倒見の良さで周囲に馴染みました。地域の中で地道で正直な暮らしを送っていた奥畑さん、「昔、苦労していたから、今が一番幸せ」と話し、毎日手を合わせています。



有馬キクさん(大正町1丁目)

5人の子どもを育てるため、大島紬の機織りで家計を支えました。今でも正月になると家族で大島紬の着物を着ます。夫の退職後は、旅行や風景画を描いて夫婦仲良く過ごしていました。自分で仕立てた大島紬を着てお祝いを受けた有馬さんは「皆さんに感謝しています」と話しました。

2/11

多くの方が参拝する子どもの神様

～西原大神宮春季例大祭 にしぼるさん～

▶子どものすじ、ひきつけ、夜泣きに利益があると言われてます



西原大神宮で春の大祭「にしぼるさん」は行われました。同神宮は「子どもの神様」として、昔から地域の人々の信仰を集めています。当日は、神の使いである鶏の絵が描かれた絵馬に子どもの年齢と名前を書いて奉納する人や、コロナの影響もあってか、遠くに住む子や孫の健やかな成長を祈願する人の姿も見られました。8カ月になる子どもの健康を祈願しに来た福島さんは「病気をせずにすくすく育ってほしい」と話していました。

2/13

新型コロナの収束を願って

～四山神社春季例大祭 こくんぞさん～

▶前の人と身体的距離を保って並ぶ参拝客たち



四山神社の春季大祭「こくんぞさん」が行われました。今年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、舞の奉納や露店の出店は中止し、規模を縮小して行われましたが、多くの方が参拝に訪れ、縁起物である5円玉の「福銭」を求めていました。奉賛会の一二三宏会長は「皆さんきちんとソーシャルディスタンスを保って参拝されている。みんなで無事にコロナ禍を乗り越え、早く元の賑わいを取り戻してほしい」と話していました。